

子どもの体力

県教育庁保健体育課長

山 本 圭 司



先日、スポーツ庁から「平成二十九年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の集計結果が発表されました。全国の結果をみると、子どもの体力・運動能力は、ここ数年、緩やかな向上傾向にあるものの、昭和六十年頃のピーク時と比較すると依然として低い状況です。また、運動する子どもとしない子どもの二極化や体を自分の思うとおりに動かす能力の低下傾向、さらに、運動不足も一つの要因となつて、肥満傾向の子どもの増加などにより、将来の生活習慣病につながることも懸念されています。本県の子どもの体力は、概ね高い水準を保っていますが、小学校においては握力や柔軟性、中学校においては持久力が低いといった課題があります。

体力は、人間の活動の源であり、健康の保持・増進のほか意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっていることは、誰もが実感されていることでしょう。さらに、豊かな人間性や自ら学び考えるといった「生きる力」の重要な要素ともなります。

多くの児童生徒は、意欲的に体育授業に臨

んでいます。中には運動の楽しさや喜びの基礎となる技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られず運動への関心や意欲が高まっていない場合もあります。また、外遊びが少なくなったり生活の利便化により日常的に体を動かす機会が少なくなっている現状が、今後さらに進展することも考えられます。そうすると、これまで以上に体育授業が重要となり、児童生徒が運動に主体的に取り組むことができるような視点での指導上の工夫が求められます。

県教育委員会では、県総合教育センターと連携した実技を含めた授業づくり研修講座や各体育連盟や市町村教育委員会と連携した研修会等により、体育授業に関わる教員の指導力向上を図っております。引き続き、運動が苦手な児童生徒も楽しく体育授業に参加し、運動に親しむことで、より多くの子どもたちの体力向上を図るとともに、生涯にわたって明るく豊かな生活を営む態度が育つような授業の充実に取り組んでまいります。